

## 2013 年度 小委員会活動成果報告

(2014 年 01 月 27 日作成)

小委員会名	サーマルマネキン学会規準作成小委員会	主 査 名：田辺 新一 就任年月：2013 年 4 月
所属本委員会 (所属運営委員会)	環境工学委員会 (企画刊行運営委員会)	委員長名：田辺 新一 主 査 名：佐土原 聡
設 置 期 間	2013 年 4 月 ～ 2015 年 3 月	
設 置 目 的 各年度活動計画 (箇条書き)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・サーマルマネキンを用いた室内温熱環境評価法の学会規準作成</li> <li>・2013 年度：CD 及び DS の執筆、国内外文献及び最新動向の調査、解説書執筆</li> <li>・2014 年度：ES に向けての外部査読・パブコメ、規準の刊行、講習会開催</li> </ul>	
委員構成 (委員名 (所属))	委員公募の有無：無	
	主査 田辺新一 (早稲田大学)、幹事 尾関義一 (旭硝子) 委員 岩本静男 (神奈川大学)、大森敏明 (東京ガス)、小笠原岳 (明星大学)、金勲 (国立保健医療科学院)、佐古井智紀 (信州大学)、佐藤孝広 (久米設計)、高田暁 (神戸大学)、堤仁美 (昭和女子大学)、永野秀明 (東京都市大学)、西原直枝 (聖心女子大学)、三浦克弘 (鹿島建設)、和田一樹 (竹中工務店) 「計 14 名」	
設置 WG (WG 名：目的)		
2013 年度予算	150,000 円	ホームページ公開の有無：有 委員会 HP アドレス： <a href="http://www.aij.or.jp/gakujutsushinko/f-a00/fm00-12/fmj0-12.html">http://www.aij.or.jp/gakujutsushinko/f-a00/fm00-12/fmj0-12.html</a>

項 目	自己評価
委員会開催数	6 回 (年度内計画を含む)
刊行物 (シンポジウム資料等は 除く)	
講習会	
催し物 (シンポジウム・セミナー等) *能力開発支援事業委員会 承認企画	
大会研究集会	
対外的意見表明・パ ブリックコメント等	
目標の達成度 (当初の活動計画と得ら れた成果との関係)	1. CD 作成：完了 2. 解説書原案作成：完了 (2014 年 3 月予定) 3. 上記 1、2 の原稿をまとめて DS とする
委員会活動の問題点 ・課題	予定通り進行中

\* 小委員会活動成果報告書は本書式を基本とする。ただし、それぞれの本委員会において活動実績を報告する共通項目があれば、最下段に項目を追加して記述してもよい。

\*表中の「(書名)」等の赤文字は、記述を誘導するための説明である。記載の有無にかかわらず最終的には削除のうえ提出すること。

\* 小委員会活動成果報告書は本書式を基本とする。ただし、それぞれの本委員会において活動実績を報告する共通項目があれば、最下段に項目を追加して記述してもよい。

\* 中間年度には中間評価を、最終年度には最終評価としての自己評価を記入すること。

環境工学委員会用 自己評価欄

## 2013 年度 小委員会活動 自己評価

(中間年度評価) 最終年度評価)

総合評価 (4 段階評価)	A	B	C	D
総合評価に関する 自由記述欄 (理由、特記事項等)	<p>・ 2013 年度小委員会は <u>6 回開催</u> し、充実した意見交流が行われた。</p> <p>・ CD の作成が終了し内部査読を経て <u>DS を作成</u> している。</p> <p>・ 学会規準は本文と解説を合わせて 75page 程度を予定。</p> <p>・ <u>解説書</u> の原案は <u>2014 年 3 月まで作成</u> する予定であり執筆も順調である。</p> <p>・ 解説には活用例・研究例を豊富に載せ、規準の充実化と分かりやすさを図る。</p> <p>以下の目標に向けて順調に進行している。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 2014 年 3 月                    DS 完成</li> <li>・ 2014 年 5 月～6 月        パブコメ</li> <li>・ 2014 年 7 月                FDS 完成</li> <li>・ 2014 年 8 月～10 月      外部査読</li> <li>・ 2014 年 12 月              版下原稿完成    入稿</li> <li>・ 2015 年 3 月                刊行    講習会</li> </ul>			

- 総合評価は 4 段階(A>B>C>D)にて、自己評価すること。
- 中間年度における自己評価は、単年度の活動計画・目標に対する達成度にて、最終年度における自己評価は、小委員会の設置目標に対する達成度にて評価する。自己評価の目安は以下の達成度レベルを参照のこと。
  - A 評価：小委員会設置目標に対し、80%以上の達成度
  - B 評価：小委員会設置目標に対し、70%から 80%の達成度
  - C 評価：小委員会設置目標に対し、60%から 70%の達成度
  - D 評価：小委員会設置目標に対し、60%以下の達成度
- 小委員会の活動に対し、第三者的評価・外部評価（シンポジウム、セミナー等の催し物を開催した場合に収集した参加者の評価など）に相当する情報がある場合には、その内容も記述すること。